セルロイドサロン

第 252 回

松尾　和彦

セルロイド産業文化研究会 25 年の歩み

世界で最初の合成樹脂として知られるセルロイドは、戦前期には日本が世界生産の約40%を占めるほどの代表的産業であった。しかし現在では国内生産は既に停止しており、セルロイド産業史に関するまとまった研究はまだ現れていない(谷本雅之著:在来的発展と大都市)のが、現状である。

このような状況を憂いていた岩井薫生のところにアメリカから一通の手紙が届いたのは偶然ではなく必然であったと言えよう。キース・ラウエルという発信者が求めていたのは日本におけるセルロイド研究の協力者であった。この申し出を快諾した岩井がセルロイド生地製造者、加工業者等の関係者に声をかけて 2000 年に発足したのがセルロイド産業文化研究会である。従って本年(2024 年)は足掛け 25 年となるので本研究会の軌跡をたどってみることとした。

発足当時の研究会は決して一枚岩ではなかった。つい最近までセルロイドに携わっていて熱心に進める者がある一方で、既に過去のものとなっているセルロイドを今更のように取り上げることもあるまいといった具合だった。またセルロイドの生き字引的存在がいるかと思えば素人同然の者もいた。

当然のごとくに意見がまとまらず中には、このまま解散しようと述べる者までいたが、それでも岩井のリーダーシップのもとに 2000 年 10 月にラウエルも招いて第一回のセルロイドカンファレンスを開催するに至った。

第一回セルロイドカンファレンス
(前列中央がキース・ラウエル、前列右から 3 番目が岩井薫生)

こうして開催に漕ぎつけたカンファレンスは、その後「集い」と名前を開催するに至っている。研究発表を行う一方で力を入れたのが既に忘れられようとしている存在であったセルロイドを人々に周知させる活動であった。

そのためにサイトを開設してセルロイドに関する色々な話を発表することであった。セルロイドサロンと名付けた発表活動は、幸いなことに好評をはくし現在まで 250 回を重ねるに至っている。

もう一つの大切な仕事が散逸しようとしていたセルロイドの収集であった。文献、生地、製品、製造機材等約 10 万点を集めた展示施設を横浜に開館したのは 2005 年 3 月であった。

横浜の展示施設内部

セルロイドメモワールハウス横浜館と名付けたこの展示施設は老朽化のために取り壊してしまったが、2025 年には場所を変えて新たな展示施設を構える予定となっているが、登録有形文化財となっている大阪セルロイド会館、兵庫県の網干にあるダイセル異人館でも展示をして啓蒙活動を行っている。

このような活動をおこなっていくうちに博物館との交流も生まれた。先ず国立科学博物館で 2018～2019 年に行われた「日本を変えた千の技術博」では、「セルロイド～日用品から玩具まで」として紹介された。

同じ頃に松戸市立博物館で行われた合成樹脂に関する展示にも協力している。

さらにはセルロイド産業、特に玩具製造が盛んであった葛飾区の葛飾郷土と天文の博物館で行われた「セルロイドの町かつしか」に全面協力を行った。

関西では、かつてセルロイドのフィルムが使われていたことから京都の「おもちゃ映画ミュージアム」の創立者である元大阪芸術大学教授の太田米男氏に講演を依頼した関係から生まれた交流で、セルロイドに関する講演を行ったりした。

国の登録有形文化財となっている大阪セルロイド会館

現在では展示施設となっているかつての異人館

このような交流の結果、横に広がるネットワークが形成されていった。
そして日本化学会の化学遺産第 009 号に認定されるという喜びもあった。

化学遺産第 009 号の認定証

化学遺産に認定された生産設備

セルロイドは現在の石油化学系合成樹脂と違い天然由来のものであるために独特の柔らかさ優しさがあり、今でも愛好者が多いので今後も活動を行っていく所存である。

この 25 年の間に初期メンバーであった元ダイセル副社長甲斐学氏、中條潔氏、塚田興治氏、大成化工の和久井昭蔵氏、おまけ屋 ZUNZO の宮本順三氏、大阪セルロイド会館の長峰稔氏らが鬼籍の人となった。そういった人々に哀悼の意を表するとともに今後の活動を見守ってもらいたいとの思いも表するものである。

また当初より尽力してくださった立川正義氏、野木村政三氏、菱川信太郎氏らに改めて謝意を示すものである。

参考までに最近どのような講演を行ったかの表を添付しておきます。

講演年	題名	発表者
2009 年	大阪セルロイド会館の歴史	長峰　稔
	セルロイドと東成区	松尾　和彦
	セルロイド事業の一世紀	甲斐　学
2010 年	夢にかけた 10 年	甲斐　学
	セルロイドハウスへの思い	岩井　薫生
	10 年の歩み	大井　暎
	兄貴分の硝酸セルロースと弟分の酢酸セルロース	柴田　徹
2011 年	明治大正のセルロイド	大井　暎
2012 年	万年筆の製造	川上　清史
	吹き込み成型	三木　弘司
	セルロイドのマーケティング	小野　喜啓
	生活の中におけるセルロイド	松尾　和彦
2013 年	ゴルフクラブネックソケットの製造	橋本　啓一
	東京地区における文献活動	平井　英一
	セルロイドのマーケティング(2)	小野　喜啓
	生活の中におけるセルロイド(2)	松尾　和彦
2014 年	セルロイド歯ブラシについて	稲田　真一
	セルロイド歯ブラシの製造工程	野口　克己
	セルロイド組合の変遷	小野　喜啓
2015 年	タキロン産業転換の歴史	山口　集
	関西興産よりの金型について	佐藤　功
2016 年	太陽刷子の沿革	小倉　義生
	セルロイド工業の軌跡	松尾　和彦
	大阪セルロイド組合の歴史	小野　喜啓
2017 年	さわやか交流会を顧みて	
2018 年	朝鮮戦争時のセルロイド業界	定延　英一
	セルロイド発明から 150 年、ダイセル 99 年	大井　暎
2019 年	硝化綿・酢酸綿フィルムの映像からデジタル化へ	太田　米男
	金型調査の進捗状況報告	佐藤　功

2023 年	セルロイドの歴史と大阪	松尾　和彦
	関西セルロイドプラスチック工業協同組合の 沿革と今後の展望	

セルロイド産業文化研究会発足メンバー:岩井薫生、大井暎、三木弘司、松尾和彦。